

リオデジャネイロパラリンピックでの団体銀メダル獲得で大注目！

# ボッチャ

様々なスポーツの魅力を紹介していく「スポーツ博士への道」。今回はリオデジャネイロパラリンピックで、日本代表が団体銀メダルを獲得して注目度が上がっているボッチャにスポットを当て、バリアフリーな競技の面白さを紹介していきます。

ボッチャの起源は古代ギリシャで行われていた球投げと言われ、6世紀のイタリアで現在のルールに近い競技の原型が考え出された。20世紀に重い障害のある人も参加できる形にルールが整備され、世界中で親しまれるスポーツとなる。1988年のソウル大会から、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のための競技としてパラリンピックの正式種目となった。日本国内では1997年に日本ボッチャ協会が発足し、重度障害者を対象とする競技会を開催。現在では世界大会へも数多く参加するまでに普及している。



©Getty Images

## 競技

赤と青それぞれ6個のカラーボールを、投げる、転がす、他のボールに当てるなどして、ジャックボールという目標となる白い球にいかにか近づけるかを競う。ボッチャ (boccia) とはラテン語で「ボール」という意味で、ルールが似ていることから「陸上のカーリング」と呼ばれることもある。試合形式には1対1の個人戦、2対2のペア戦、3対3の団体戦の3種目がある。1試合は個人戦、ペア戦が4エンド、団体は6エンドで行われ、ペア戦、団体戦では試合中に3分間のタイムアウトを一度要求できる。



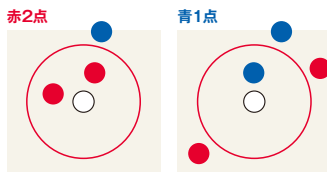
◀団体戦ではタイムアウトを取ることができる ©X-1

## 試合の流れ

コインスで勝った方が赤（先攻）か青（後攻）のどちらかを選択。先攻の赤がジャックボールを持ち球1球を投げ、次に青が持ち球を1球投げる。以後はジャックボールに近い選手（チーム）がボールを投げる。その後もジャックボールより近い選手（チーム）が投げ続け、両選手（チーム）ともボールを投球しきったらエンド終了（第2エンドは先攻後攻を交代）。

## 得点例

ジャックボールに最も近い色の選手（チーム）が勝利。何点獲得したかについては、ジャックボールを円の中心として、敗れた側との半径内に「勝った側の球が何球あるか」で決定する。

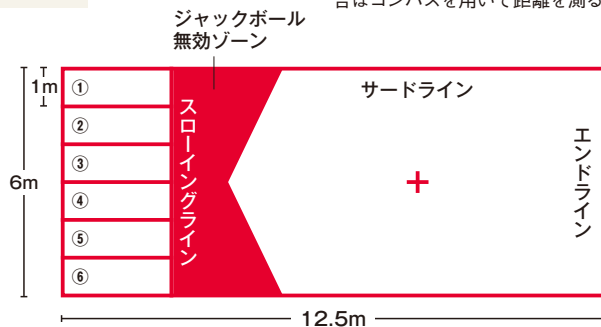


©Getty Images

▲どちらのボールがよりジャックボールに近いかが判断が難しい場合はコンパスを用いて距離を測る

## [ ボール・コート ]

- ボール  
白いジャックボール1球と赤・青のカラーボールをそれぞれ6球、計13球を使用（皮革製）。重量275g±12g、周長270mm±8mmがボールの基準。
- コート  
コートは12.5m×6mで、バドミントンコートとほぼ同じ大きさ。選手はスローイングボックス内で投球をする。スローイングボックスは1mの幅で1～6に分割されており、赤が偶数、青が奇数に入るのがルール。個人戦では中央側のボックス3（赤）と4（青）に入り、ペア戦と団体戦では各選手が交互に並ぶようにボックスに入る。



## 競技の特徴

障害によってボールを投げるができなくても、プレーできるのがボッチャの特徴。手が使えないのなら足でキックしても良いし、競技アシスタントにサポートを頼んで“ランプ（勾配具）”という小さなすべり台状の器具を用いて転がしてもOK。なお、競技アシスタントは選手へのアドバイス、コートを見るなどの行為を禁止されている。

また、障害の種類や程度によってBC1、BC2、BC3、BC4のクラス分けがあり（表参照）、男女の区別なくクラスに分かれて行う。BCクラスに該当しない選手は、オープンクラスでプレーする。

## クラス分け

### ▶ BC1

対象	脳原性疾患
投球	可（足蹴り可）
勾配具	×
アシスタント	○
種目	個人、team BC1/2

### ▶ BC2

対象	脳原性疾患
投球	可
勾配具	×
アシスタント	×
種目	個人、team BC1/2

### ▶ BC3

対象	脳原性疾患、非脳原性疾患
投球	不可
勾配具	○
アシスタント	○
種目	個人、ペア

### ▶ BC4

対象	非脳原性疾患
投球	可（足蹴り可）
勾配具	×
アシスタント	△（足蹴り選手のみ可）
種目	個人、ペア

## 使用器具① 車いす



◀ 車いすの座面の高さは66cm以下とルールで定められている  
© X11

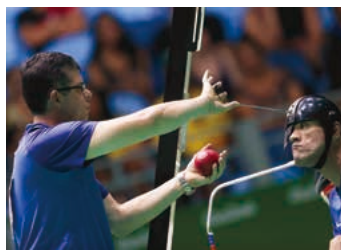
## 使用器具② ランプ



◀ ランプは使う選手の障害が様々であるため形に規定はない。ただし、すべての素材が1m×2.5mのサイズに収まる大きさでなければいけない  
© X11

## ボッチャ 雑学① 健康者でもパラリンピックを目指せる

自分でボールを投げるができないBC3クラスの選手はランプと呼ばれる勾配具を使用して投球する。この時、選手をフォローするのがアシスタントで、選手の指示に従いながらコースを設定する。このアシスタントは一選手につき一人で、アスリートとして扱われるため、健康者であってもパラリンピックに出場することができ、メダルももらえるのだ。



©Getty Images

## ボッチャ 雑学② ボールの種類は無数にある

ボールは大きさや重さには規定があるが、その範囲の中でならカスタマイズすることが可能。ゴルフで状況に応じて使用するクラブを選ぶように、ボッチャでもボールを弾きたい時、ジャックボールにピッタリとつきたい時など、状況によって素材の違うボールを選択することができ、オイルを塗って滑りやすくしたりすることもできる。写真のように皮の質や硬さが違うボールを各選手は使用している。また、試合前には卓球のラバーチェックのように、相手がどんなボールを用意しているか、お互いにチェックする時間が設けられている。



## ボッチャ！ 魅力&見どころ

▶ 体験会も数多く実施されている  
（写真提供・一般社団法人日本ボッチャ協会）

ボッチャは障害者スポーツと思われがちですが、小さい子どもからお年寄りまで誰でも簡単に楽しむことができます。それでいて将棋や囲碁のように様々な戦術展開を楽しめるのも魅力の一つだと思います。「こんな攻め方もあったんだ」と驚かされることも多いですよ。的になるジャックボールが動くため、失敗だと思っていたボールも展開しただけでは有効なボールに変わることがあって一発逆転があるのも面白さです。投げる順番は野球でいう打順みたいなもので、誰を何番目に配置するかを考えるのも楽しいと思います。トップ選手の競技を見る時は緊張感の中で投げる選手のメンタル面にも注目してみてください。工夫されたボールをどこで使うかなど、戦略がわかるとより楽しめると思います。（村上光輝／一般社団法人日本ボッチャ協会 強化指導部長）

